

夏休みの補聴器のトラブルと対処

長い夏休みがやってきます。汗のトラブルがないように、汗対策もしっかり行ってください。

さて、夏休み中に海や川に行くこともありますが、補聴器の水の事故の場合、どのように対処すればよいでしょう。

川やプール、お風呂などに補聴器をはずし忘れたまま入っちゃった。

- ① 音が出ているかどうか確認します。(※電池の有無や、スイッチのon-offに注意してください。)
- ② まず十分に水をふき取ります。
(※電池を出し、電池ホルダーの中もティッシュや綿棒などでよくふきます。
その他、フックをはずしたり、内部でふけるところはふきます。)
- ③ 内部の水分を出すために、よく振ります。(水銀体温計を振るときのように)
- ④ ②・③を繰り返して、水分を出来るだけ取り除きます。
- ⑤ ドライヤーがあれば、電池ケースを開けたままで、冷風を送り込み、乾かします。
(※熱風をかけてはいけません。)
- ⑥ (音が出ていれば)強力な、また大量の乾燥剤のケースに一昼夜置いて様子をみます。
- ⑦ 音が小さかったり、雑音がしたり、音が出なくなっていたら、乾燥ケースに入れたまま、すぐに補聴器屋さんへ修理に出します。
(※購入した店でなくても、最寄りの補聴器屋さんや、眼鏡屋さんでも対応してくれます。)

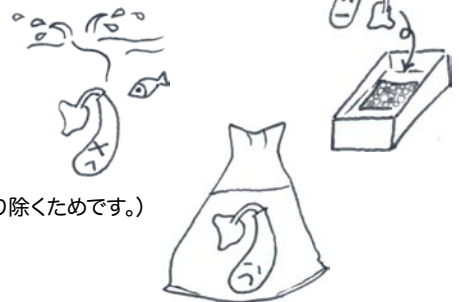


すぐに気がつき、水の中から救出すれば、軽症で済み、音も出ると思いますが、重症の場合は音が出なくなったり、「プツプツ」という音だけがすることがあります。



海に落としたり、海水につかったとき。洗濯機で回してしまったとき。

- ① (音が出ていなかったら)しばらく水(真水)の中に浸けます。(塩分を取り除くためです。)
- ② 上記②～⑤の処置をし、すぐに補聴器屋さんへ持っていきます。



ハウリングしていませんか？イヤモールドは合っていますか？

どうしてハウリングがするのでしょうか？

マイクに入った音は、補聴器で増幅され、イヤホンからイヤモールドを通して耳に達します。その通道のどこかで、音がもれて、また補聴器のマイクにもどるためにピーピーと音がするのがハウリングです。(裏面、図参照)

もっとも多いハウリングの原因は、イヤモールドが耳に合っていないためです。

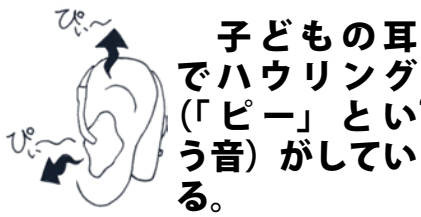
しかし、ハウリングは、補聴器の故障が原因で起こることもあります。原因をつきとめ、ハウリングを起こさせないように対処が必要になります。

ハウリングしたまま放っておく

と、連続して最大出力に近い音が出ているため耳に決してよくありません。また、会話をなどを聞き取りにくくしてしまいます。

裏面に、ハウリングの原因をチェックする方法を掲載しておりますので、御活用ください。

ハウリング (ピーピー音) の原因を探る方法 (消去法)



★イヤモールドを耳に、はめ直す(押し込む)。

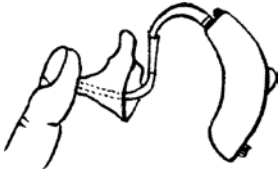
ハウリングが止まる。

・入れ方が悪かっただけかもしれません。
・または、そろそろイヤモールドが合わなくなってきているのかもしれません。

まだ、ハウリングがする。

チェック

イヤモールドの音孔(おんこう)を指でふさいでみる。



ハウリングが止まる。

イヤモールドが小さい(合っていない)。浮いている。

★イヤモールドを作り直す。

まだ、ハウリングがする。

イヤモールドか、チューブの異常

・イヤモールドのジョイント部分がぐらぐらしたり、まわったりするためにハウリングが起こる。

★接着剤で応急の修理をする。または、イヤモールドを作り直す。

チェック

イヤモールドを補聴器からはずして、フックの音孔をふさいでみる。



ハウリングが止まる。

・導音管(チューブ)の接続の部分から音がもれているか、チューブが古くなって裂けている。

★導音管(チューブ)をしっかりとさしこんでみる、またはチューブを交換する。

まだ、ハウリングがする。

イヤモールドの作り直しの時期は...

イヤモールドは成長によって、幼児なら半年に1回、小学生なら1年に1回、中学生以上なら2年に1回くらいの割合で作り直しが必要とされています。しかし、ハウリングが起きるようになったら寿命と考えて作り直します。

チェック

補聴器からフックをとりはずして、補聴器本体の音孔をふさいでみる。



ハウリングが止まる。

フックの付け根から音もれがある。

★フックをきちんと締め直す。

まだ、ハウリングがする。

・補聴器本体から音がもれている。(内部発信による故障。)

★すぐに、補聴器を修理に出す。